

やまなし森林整備・林業成長産業化推進プランの進捗状況について

県土面積の約8割近くを占める本県の森林は、県民の生活に密接に関連した貴重な資源であり、将来にわたり良好な状態に保ち、多方面にわたり有効に活用していく必要があるため、令和2年3月に「やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン」を策定し、本県の森林・林業・木材産業等が目指す将来像の実現に向けて具体的な施策を展開しているところです。

こうしたプランの実効性を確保するため、基本方針ごとにそれぞれ数値目標（合計11指標）を掲げ、毎年度、目標実現に向けた施策の進捗状況や効果等について点検、評価を行うこととしています。

○ 数値目標の進捗状況

令和2年度末時点における進捗状況の結果は、次のとおりです。

（目標年次：令和11年度）

項目	指標	年度目標 (R2)	実績値 (R2)	進捗	達成 状況
1 森林整備の推進 森林の保全	①森林整備の実施面積（年間）	6,262ha	6,174ha	99%	未達成
2 治山施設等の整備	②山地災害危険地区対策地区数（累計）	2,352 地区	2,353 地区	100%	達成
	③長寿命化対策済の施設（累計）	268 箇所	277 箇所	103%	達成
3 森林空間の利活用	④森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数（年間）	750 千人	484 千人	65%	未達成
4 県産材供給体制の強化	⑤木材生産量（年間）	237 千m ³	227 千m ³	96%	未達成
	⑥製材用途の木材生産量（年間）	28 千m ³	26 千m ³	93%	未達成
5 県産材需要拡大の推進	⑦木材製品出荷量（年間）	35 千m ³	36 千m ³	103%	達成
6 林内路網整備の推進	⑧林内路網の整備延長（累計）	4,688 km	4,684 km	100%	達成
7 木質バイオマスの利活用の推進	⑨木質バイオマス燃料用木材供給量（年間）	74 千m ³	83 千m ³	112%	達成
8 林業の担い手の確保・育成	⑩林業の新規就業者数（年間）	45 人	37 人	82%	未達成
9 特用林産物の産地化の推進	⑪クロアワビタケの生産量（年間）	2.20 t	1.65 t	75%	未達成

このうち、「山地災害危険地区対策地区数」など5指標は、100%を上回る実績があった一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用者数が減少した「森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数」、森林・林業体験ツアーの参加取りやめなど、本県林業の魅力を十分に伝えきれなかった「林業の新規就業者数」、また、生産量が前年度より増加したものの、夏期の高温・少雨等により目標の収量に達しなかった「クロアワビタケの生産量」を除き、全体として順調に進捗しています。

やまなし森林整備・林業成長産業化推進プランの概要

趣旨及び計画期間

- ・令和元年の森林経営管理法の施行や森林環境譲与税の譲与開始など、森林・林業行政は大きな転換期を迎えている。
- ・戦後や高度経済成長期に造成された人工林の多くが、木材として利用可能な時期を迎えている中、県内での大型バイオマス発電所や大型合板工場が稼働するなど、県産木材の需要が高まっている。
- ・こうした情勢の変化に対応するため、「山梨県総合計画」の部門計画として森林・林業・木材産業行政の指針となる新たなプランを策定
- ・計画期間：R2～R11(10年間)

目指す方向及び基本方針

I 森林の公益的機能の強化

- ・安心、安全の確保や豊かな県民生活を支えている森林の持つ地球温暖化の防止や山地災害の防止、水源涵養、保健休養等の公益的機能を強化

II 林業の成長産業化の推進

- ・本格的な利用期を迎えた人工林資源を活用した林業の成長産業化を進めるため、「伐る、使う、植える、育てる」といった、森林資源を循環利用する取り組みを推進

現状と課題

I 森林の公益的機能の強化

○現状

- ・県民は森林の公益的機能の発揮に特に期待
- ・手入れ不足の人工林が依然として多く存在
- ・松くい虫やナラ枯れ、野生鳥獣による被害が深刻
- ・全国的に豪雨災害が頻発・激甚化
- ・森林空間の様々な活用への期待の高まり

○課題

- ・手入れ不足の人工林の整備が必要
- ・松くい虫や野生鳥獣対策等、森林の保全が必要
- ・治山施設の整備等、山地災害対策の強化が必要
- ・森林空間の新たな利活用の推進が必要

II 林業の成長産業化の推進

○現状

- ・充実した森林資源の本格的な利用期
- ・森林の所有構造は小規模零細
- ・木材生産量の約8割がチップ用途(全国は約2割)、製材用途は約1割(全国は約6割)
- ・木材の生産性が低位
- ・林業就業者数の長期的な減少傾向・高齢化
- ・特用林産物の生産量が減少

○課題

- ・森林施業の生産性向上や付加価値の高い製材品の加工・流通体制の整備などが必要
- ・県産材の需要拡大が必要
- ・林内路網の整備が必要
- ・未利用間伐材等、資源の有効活用が必要
- ・林業の担い手の確保・育成が必要
- ・特用林産物の生産の促進が必要

施策の展開方向

I 森林の公益的機能の強化

1 森林の整備

森林環境税等を活用した間伐等荒廃人工林の整備や、企業・団体等による森林整備への支援

2 森林の保全

保安林の整備・管理や病虫害対策の推進、鳥獣被害の防止、林地保全対策

3 防災・減災のための治山施設整備等の推進

治山施設の計画的な整備や治山・林道施設の長寿命化の推進

4 森林空間の利活用

森林の保健休養機能の活用や美しい森林景観づくりの推進、森林を活用したサービス産業の促進、森林環境教育の推進

II 林業の成長産業化の推進

1 県産材供給体制の強化

再造林に必要な苗木生産力の強化、主伐後の再造林や間伐等による森林の整備、森林施業の生産性向上、林業・木材産業関連事業者によるサプライチェーンの構築、品質の確かな製品の加工・供給体制の整備

2 県産材の需要拡大

公共や民間建築物等への木材の利用促進、東京圏への販路拡大や海外輸出の促進、県産FSC認証材のブランド化、県産木材利用の普及啓発

3 林内路網整備の推進

計画的な林内路網の配置や生産基盤強化区域の設定

4 木質バイオマスの利活用の推進

木質バイオマス利用施設等や未利用間伐材等の供給体制の整備

5 林業の担い手の確保・育成

林業の魅力発信等による新規就業者の確保や、意欲と能力のある林業経営体の育成、人材育成のあり方の検討

6 特用林産物の産地化の推進

きのこ・薬用植物の栽培技術の確立や販路拡大・生産者の確保・育成

数値目標

森林整備の実施面積(年間)
6,124ha→7,300ha

山地災害危険地区対策地区数
(累計) 2,322地区→2,487地区

長寿命化対策済の施設数(累計)
232箇所→388箇所

森林公園、森林文化の森、
清里の森の利用者数(年間)
713千人→917千人

木材生産量(年間)
201千m³→335千m³

製材用途の木材生産量(年間)
24千m³→77千m³

木材製品出荷量(年間)
15千m³→98千m³

林内路網の整備延長(累計)
4,598km→5,093km

木質バイオマス燃料用木材供給量
(年間) 38千m³→122千m³

林業の新規就業者数(年間)
41人→57人

クロアワビタケの生産量(年間)
0.32t→7.00t

【やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン】進捗状況について（令和2年度末 プラン2年目）

施策	項目	指標	基準値 (H30)	目標値 (R11)	R2年度進捗状況			※1 達成状況 (目標の達成)	進捗状況や効果等に係るコメント	今後の対応	担当課
					年度目標 A	実績値 B	進捗 (%) (B/A)×100				
森林の 公益的 機能の 強化	1 森林整備の推進 森林の保全	①森林整備の実施面積（年間）	6,124ha/年	7,300ha/年	6,262ha/年	6,174ha/年	99%	未達成	新型コロナウイルス感染症の影響により、大型合板工場等が一時生産調整を行い、原木の搬入制限をしたことから、林業事業者が収穫間伐等の森林整備を控えたことにより、目標を僅かに下回る進捗となった。	造林補助事業等により森林所有者を支援するとともに、林業事業者等と連携して着実な森林整備を進めるなど、引き続き、目標達成に向け取り組んでいく。	森林整備課
	2 治山施設等の整備	②山地災害危険地区対策地区数（累計）	2,322地区	2,487地区	2,352地区	2,353地区	100%	達成	15地区（累計2,353地区）の山地災害危険地区について新たに着手し、目標とおりの進捗となった。	山梨県強靱化計画の推進方針に基づき、治山施設が未整備な山地災害危険地区において、計画的な施設整備に取り組み、土砂災害対策を推進する。	治山林道課
		③長寿命化対策済の施設数（累計）	232箇所	388箇所	268箇所	277箇所	103%	達成	20箇所（累計277箇所）の治山林道施設について長寿命化を図り、目標を上回る進捗となった。	山梨県治山施設保全計画並びに山梨県営林道長寿命化計画に基づき、集落周辺の治山施設や林道の橋梁・トンネルなどの長寿命化を計画的に実施する。	治山林道課
	3 森林空間の利活用	④森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数（年間）	713千人/年	917千人/年	750千人/年	484千人/年	65%	未達成	新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令され、4月中旬から5月中旬にかけて施設を閉鎖したことや、解除後も感染防止対策として施設利用者数を制限したことなどにより、目標を下回る進捗となった。	ウィズコロナ・ポストコロナ時代において森林の空間利用に対するニーズが高まっており、金川の森の森林セラピー基地の認定取得や、清里の森施設のリニューアルなど、森林公園等の魅力向上に取り組み、利用者の増加を図る。	県有林課
林業の 成長 産業化の 推進	4 県産材供給体制の強化	⑤木材生産量（年間）	201千m3/年	335千m3/年	237千m3/年	227千m3/年	96%	未達成	新型コロナウイルス感染症の影響により、大型合板工場が一時的に生産調整を行い、原木の搬入制限したことから、林業事業者が素材生産を控えたことにより、目標をやや下回る進捗となった。	森林資源が充実している地域への重点的な路網の整備や高性能林業機械の導入支援などにより低コストで効率的な木材生産を進め、県産材の安定供給を進めていく。	林業振興課
		⑥製材用途の木材生産量（年間）	24千m3/年	77千m3/年	28千m3/年	26千m3/年	93%	未達成	新型コロナウイルス感染症に起因した住宅着工数の減少を受け、事業者が製材品の在庫調整を行った影響などにより、目標をやや下回る進捗となった。	木材の生産から加工、建築にかかわる企業グループによるサプライチェーンの構築のほか、加工業者に対する施設整備やJAS認証取得への支援を行い、品質・性能の確かな県産材製品を低コストで安定的に供給する体制を強化していく。	林業振興課
	5 県産材需要拡大の推進	⑦木材製品出荷量（年間）	15千m3/年	98千m3/年	35千m3/年	36千m3/年	103%	達成	県産木材製品の販路拡大の推進などにより、目標を上回る進捗となった。	県と商工団体等で構成するYamanashiウッド・チェーン・ネットワークを活用し、民間建築物の木造・木質化や様々な分野への木材利用に取り組みほか、東京圏における販路拡大を図るための県産材製品の開発を進めることなどにより、県産材の需要拡大を推進する。	林業振興課
	6 林内路網整備の推進	⑧林内路網の整備延長（累計）	4,598km	5,093km	4,688km	4,684km	100%	達成	39km（累計4,684km）の林道・森林作業道を整備し、概ね目標とおりの進捗となった。	山梨県林内路網計画に基づき、林道及び森林作業道の整備を推進する。	治山林道課
	7 木質バイオマスの利活用の推進	⑨木質バイオマス燃料用木材供給量（年間）	38千m3/年	122千m3/年	74千m3/年	83千m3/年	112%	達成	木質バイオマス発電所や木質バイオマス利用施設での燃料使用量の増加により、目標を上回る進捗となった。	チップ加工施設の整備や木質バイオマスボイラーの導入への支援を進め、木質バイオマスの利活用を推進する。	林業振興課
	8 林業の担い手の確保・育成	⑩林業の新規就業者数（年間）	41人/年	57人/年	45人/年	37人/年	82%	未達成	林業への就業希望者を対象にした森林・林業体験ツアーでは、新型コロナウイルス感染防止の観点から参加を取りやめる人がおり、本県林業の魅力が十分に伝えきれなかったことなどにより、目標を下回る進捗となった。	森林・林業体験ツアーなど従来からの取り組みを継続するとともに、Webでの就業セミナーの開催や相談の受付、SNS等を使った本県林業の情報発信に努め、就業者の確保に取り組む。 また、令和4年度に開講する農林大学校森林学科において、高度な知識と技能を有する人材を育成し、本県林業の担い手を確保していく。	林業振興課
	9 特産林産物の産地化の推進	⑪クロアワビタケの生産量（年間）	0.32 t/年	7.00 t/年	2.20 t/年	1.65 t/年	75%	未達成	R2年度生産量は前年度の1.8倍に増加したものの、菌床の含水率が気温の変化等の影響を受け生産量が安定しなかったことなどから、目標を下回る進捗となった。	生産者の開拓、販路拡大などの取り組みを継続するとともに、菌床1個当たりの収穫量を増加させるため、試験データを元に培地の配合や散水方法等の見直しを行うなど、栽培技術の確立及び生産量の増加を目指す。	林業振興課

※1 達成状況（目標の達成）は、100%以上が「達成」、100%未満を「未達成」に評価。

ウィズコロナ／ポストコロナ社会において、人々の暮らしや価値観が大きく変わりつつある中、三密が避けられリラクゼーション効果のある森林に対するニーズが高まっている

県土の8割を占める森林を活用した新たなビジネス創出により、森林の付加価値向上を図り、山村振興につなげる

魅力的な森林空間の整備・活用

恵みの森モデル林整備事業

森林空間を活用した森林散策や山菜の収穫体験などの場を提供する「恵みの森モデル林」の整備に助成し、体験型・着地型コンテンツとして観光分野と連携したプロモーションを展開

事業内容：山菜等の植栽、散策路、ベンチ等の整備

予算額：600万円/年 定額(1件あたり上限200万円)



収穫体験ツアー

R3 整備箇所

場所：峡南地域 早川町大原野

事業者：南アルプス生態邑（ヘルシー美里指定管理者）

内容：山菜収穫体験、野鳥教室、森林浴等
ヘルシー美里、南アルプス邑野鳥公園との連携



整備箇所

場所：東部地域 大月市富浜町

事業者：野草のさと大月加工センター企業組合

内容：山菜収穫体験、森林浴、ヨガ講座等
隣接観光農園、桂川ウェルネスパークとの連携



行者ニンニク タラの芽

場所：富士五湖地域 山中湖村山中

事業者：山中湖エコミュージアム推進事業団

内容：山菜収穫体験、森林浴、山仕事教室等
花の都公園など地元観光宿泊施設との連携

森林を活用したビジネスモデルの創出

森林活用ビジネス創出支援事業

本県の森林の持つポテンシャルを有効に活用し、健康や観光、教育等の分野と連携して様々なサービスを提供するなど、新たなビジネスモデルを生み出す取り組みの初動を支援

事業内容：事業計画、事業に必要な調査、事業の試験運用

予算額：200万円/年 経費の1/2以内（1件あたり上限100万円）

R3 採択事業

テーマ：林間アウトドアサウナ

事業者：(株)トランジットジェネラルオフィス（東京都渋谷区）

内容：2022年完成予定の北杜市のキャンプ場内に、本場フィンランド式サウナ施設「The Sauna」をモデルケースに、豊かな自然と一体になれる、林間アウトドアサウナをビジネスモデル化

テーマ：ツリーテント

事業者：(株)TORA（東京都港区）

内容：2021年オープンの道志村キャンプ場内に、テントを木に結んで空中に浮かせるツリーテントの導入をモデルケースに、上質な非日常キャンプ体験をビジネスモデル化